

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570102956		
法人名	有限会社サカイコーポレーション		
事業所名	グループホーム楓	ユニット名	別館
所在地	宮崎県宮崎市大字郡司分甲1570番地1		
自己評価作成日	令和2年11月20日	評価結果市町村受理日	令和3年2月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_pref_search_list_list=true

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	令和2年11月20日 12月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・職員が利用者の隣に座ってゆっくり話せる時間があり、施設にはゆったりとした時間が流れている。
- ・利用者一人ひとりが日々過ごす中で出来るだけ不安なく楽しんで過ごしていただけるよう職員で連携を図りながら安心安全に努めている。
- ・利用者と共に家事をする等利用者が活躍できる機会を大事にし、利用者職員が持ちつ持たれつの関係で日々の共同生活を共に良くしていこうと取り組んでいる。
- ・コロナウイルス感染拡大防止策を考慮しつつ、いま自分たちにできることを日々模索している。
- ・利用者さんの残存機能を出来るだけ維持できるように支援している。
- ・職員が常に笑顔で接することを心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療機関や商業施設などが近隣にあり、交通機関の整備された地区に施設が所在している。利用者の各々の残存機能や思いを十分に反映できるよう個別支援に注力し、ホームでの日常生活を送れるように支援している。また、会話や声かけをゆっくりとすることで、心身の状況把握に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	別館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域に馴染んだサービスの提供」を含む6つの運営理念を、毎月の全体会で全職員で唱和している。また玄関や事務室等職員の目のいきやすい所に掲示し常日頃から理念を意識できるようにしている。	玄関やリビングなど、職員や誰もが目につきやすい場所に運営理念を掲げ、また全職員で理念を唱和するなど、理念を意識したケアに取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭りの際には、施設駐車場を子供神輿の休憩所として提供している。また、常日頃から地域の消防団や関係機関と情報共有などを行い交流を図っている。	運営推進会議の委員でもある地域関係者が窓口となって地元との交流に取り組んでいる。自治会活動への参加・協力、避難訓練への地元消防団からの協力などがある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの受け入れ、介護実習施設としての提供等を行い、認知症に対する理解が広がるよう努めている。地域の方から認知症の相談をいつでも受け入れる準備がある。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月に1回開催し利用者の家族や地域住民の代表者等に、入居状況や事故報告等現在の施設の現状を明らかにしサービスの質を確保し、地域との連携を図っている。	運営推進会議には地元に住む委員の参加があり、意見や提案を話し合い、それらを運営に生かすよう取り組んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	常日頃から関係機関などへの挨拶・相談を欠かさないようにしている。質問等あった際には介護保険課の担当者に相談に乗っていただき、サービスの向上に務めている。	市役所の担当課には、日頃からできるだけ足を運び直接相談したり、事業所の取組状況を伝えるなど、担当者とも顔なじみの関係を築けるよう努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在、身体拘束は行っていない。身体拘束について、内部研修で全職員に展開し身体拘束をしない利用者の尊厳を考えたケアを実施している。身体拘束適正化委員会を設置している。	運営推進会議では身体拘束等適正化検討委員会を併せて行っている。また職員の勉強会では身体拘束やグレーゾーンの不適切ケアを話題に取り上げ、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止マニュアルを職員がいつでも閲覧できるようにしている他、外部研修にも積極的に参加している。又、内部研修でも定期的に取り上げ、職員全員の理解を深める努力をしている。			

自己	外部	項目	自己評価	別館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	介護福祉士などの有資格者や権利擁護推進委員を配置しており、いつでも権利擁護について相談に乗れるようにしている。内部研修で学ぶだけでなくマニュアルを作成、職員に配り理解を深めている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	運営方針などを十分理解していただいた上で契約・入所していただけるよう、契約前から本人やご家族と話し合いを重ね合っている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置し、苦情相談窓口のご案内をしている。また、家族会総会などにも運営者が参加している。日頃から、ご家族と話をする機会を多く作り意見が言いやすい環境作りに取り組んでいる。	家族会が組織され、事業所の幹部職員も参加して年1回総会を開催している。また家族等から意見を聞く機会を大事にし、ケアプランの見直しやサービスの向上に反映させるよう取り組んでいる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事前に職員から全体会等で検討して欲しいことなどを聞く機会を設け、全体会の時に十分な検討を行なえるよう努めている。そして、運営者は、出来るだけ職員の話聞けるようにしている。	代表者、管理者とも日頃から職員と言葉を交わし、意見の把握に努めている。特に職員が主体的に行う行事や担当業務について意見を聞き、運営に反映させるよう取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	余裕を持った職員配置にしている。資格・積極性などを考慮し、本人の強みを活かすことができる業務を割り振り、介護職員処遇改善加算を支給している。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今後どのようなことを学んでいきたいかを尋ね、これまで各職員が培ってきた経験や本人の希望を考慮し研修に参加する機会を設けている。内部研修では認知症についての発表の場を設けスキル向上に努めている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各種協議会に参加し、医療従事者や介護従事者と情報交換を行うなどをしてネットワーク作り、サービスの質の向上に努めている。グループホーム同士の連携が図れるように努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	別館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談から施設利用までに本人とお会いする機会を持ち、本人の個性や要望を確認した上で施設生活が安心できる支援が出来るようにしている。また職員ひとり一人が明るい雰囲気で接し安心できる関係づくりを心掛けている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談から施設利用までに家族と話し合う機会を持ち、家族からの要望を確認した上で家族の不安が軽減するように支援している。また職員一人ひとりが明るい雰囲気ですぐに信頼関係が構築できるように心掛けている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	問い合わせがあった時やホーム見学時等にご家族の意向や本人の状態などを伺い、ホームの説明を行なっている。場合によってはご家族の意向にあった他の施設サービスを説明することもある。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれの利用者の個性を深く理解することで施設生活で家事のお手伝いや得意とする活動を通して能力を発揮してもらい、生きがいを感じ持ちつ持たれつとの関係を築いている。			
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会等で来られた際に、本人の施設生活状況を報告し家族にも喜びを共有してもらえるような支援を行っている。生活上で問題等起こった際には本人の為になる解決ができるように家族の協力を得ながら連携を図っている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人との電話の取次ぎ・面会・外出も家族の許可があれば本人の安心・安全を配慮した上で支援している。現在は、新型コロナウイルスの感染症予防の為制限をかけている。	オンライン通話の活用は日曜日に1人3分間ずつであるが、面会制限かであっても顔を見ず話ができ、特に遠方の家族等からは喜ばれている。また定期的に新聞を発行するなど、関係継続の支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コミュニケーションに際して、非言語的な部分にも目を配り、利用者同士の関係の把握に努めている。孤立することなくよき関係が築けるよう職員が間に入ったり、定期的に席順を変更する等している。			

自己	外部	項目	自己評価	別館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後にも、ご家族の希望や必要に応じてケアの相談を受け入れている。アフターフォローを含めた上で関係が途絶えないよう努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の言動に注目し、言動の背景等を考慮してできる限り本人の希望・意向を把握できるよう努めている。また普段から利用者とのコミュニケーションを取り何でも言える環境作りに努めている。	利用者の言動や表情等に注目して、本人の思いや気持ちをくみ取るようにし、職員間では日々情報を共有するよう努めている。記録の書き方についても内部研修を重ねている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	病院・施設からの情報提供、または本人や家族とのコミュニケーションを通して生活歴等を出来るだけ把握しようと努力している。本人が今まで生きてきた人生を尊重し、知り得た情報を施設生活のあらゆる場面で活用している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の様子や言動を記録し現状の把握に努めている。職員同士でも利用者の状態について密に話し合いながら、介助に役立てている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	視点が偏ることなく多角的に検討した介護計画を作成できるよう、職員が利用者一人ひとりの状況について密に情報交換を行っている。	計画の作成、見直しなどの一連の流れを各担当を中心に行い、日常の申し送りや職員会議の場をもって、チーム全体での意見が反映できるように取り組んでいる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間センター方式を応用した専用の記録用紙に手書きで施設での生活の様子・状態・言動等を毎日記録に残している。そこで記した内容を職員間で共有しながら、また内容を振り返りモニタリングに活用している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診の付添い等利用者が施設で生活する上で必要とされる支援を行っている。またいかなる突発的なニーズにも職員が対応できるように勉強会等で資質向上を図っている。			

自己	外部	項目	自己評価	別館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	職場体験学習、移動図書館や傾聴・学生ボランティア、利用者家族からのボランティア依頼などを受け入れ、日々の生活の刺激にと役立っている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を尊重したかかりつけ医の選択ができています。またかかりつけ医による施設の往診や家族病院受診等の連携体制も取れている。家族のみでの病院受診時は適切な処置ができるように主治医宛に手紙を添えることもある。	家族の希望する医療機関の受診が継続できるように付き添いや情報共有を行っている。また地域の認知症疾患センターや訪問看護ステーションなどとの連携に取り組んでいる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な訪問看護の訪問がある。定期訪問以外にも24時間相談でき、急激な体調変化時にも、緊急訪問して頂いている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には、定期的に面会に行き、利用者及び家族が安心して治療できるよう努めると共に、病院関係者と状況等について情報共有や相談を行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んで	入所時から、重度化・終末期の対応について家族と方針を相談・共有している。当ホームでのケアの限界、アフターケアも含めて利用者・ご家族と話し合いながら、支援している。当ホームは、基本的に看取り	現在、事業所としては看取りの介護を行っていない。適宜主治医や家族と意思確認とその共有を行い、適切な医療の提供ができるよう取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故等発生した場合はその後の内部研修で対応法について振り返りを行っている。また、外部から専門講師を招き、様々な事例を想定した対応法についての勉強会を定期的開催している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者を設置し、年2回防災訓練を実施している。日中の被災や夜間の被災等あらゆる場合を想定した訓練を行ない、訓練実施時には地域の消防団の方に講師としてきていただき、初期対応について学んでいる。	例年は消防団立合いの下、年2回訓練を行っているが、消防署との協議のもと感染症対策のために訓練を中止している。飲料水、食料品を備蓄し、災害対策に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	別館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	運営理念の一つに「人格を尊重する介護」を掲げ意識付けを行うと共に、全体会などで普段の介護について振り返りを行い、職員一人ひとりが自身の介護について顧みる機会を設けている。		個々の生活の記録をこまめに行い、本人の言動や発言が認知症の症状か元来の性格かなどの把握に努めている	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	様々なレクリエーションや家事の手伝い等をしていただきながら、その時の会話や表情などを観察し、繰り返し行っていく中で自信をつけていただきながら、自己決定できるよう支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人との会話や、ご家族との話し合いの中で趣味等について聞き取り、本人が満足できるよう支援している。やったことがないと言われることでも職員が付き添い、本人の趣味の幅が広がるよう援助している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の健康状態を考慮しつつも、本人が着たい服を着ることができるよう支援している。衣類選択を一緒に行なったり、好みの服の把握にも努めている。定期的に訪問する理容師さんには本人・家族の希望に沿うようなセットをお願いしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に配膳の準備や食器の後片付け等を日常的に手伝って頂いている。その時の職員が利用者と話した上で献立を考え食事を作っている。		利用者のその時の気持ちや能力に合わせて、献立を決めたり、食事の準備、片づけを利用者や職員が一緒に行うなど、食事が楽しみなものになるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は都度記録を行い、水分摂取量が少ない方には積極的に水分補給を促している。利用者の希望を取り入れつつ、時間によって温かい飲み物や冷たい飲み物を提供するなど、水分摂取量の増加を目指し試行錯誤している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員見守りのもと口腔ケアを行っていたり、自分で磨ける方も、磨き残しなどないか口腔内を確認したり、必要に応じて介助しながら清潔を保っている。			

自己	外部	項目	自己評価	別館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを記録し、声掛けトイレ誘導を行う等の支援を行っている。おむつをしない、おむつを外すよう努め、万が一排泄に失敗した時でも本人が自信をなくさないような声掛けを意識している。		こまめな声掛けや定時誘導を行うことで、排せつパターンを把握し、リハビリパンツの使用をやめたり、全利用者がトイレでの排せつを行えるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維物を多く含んだ食物や発酵食品を食事・おやつで毎日提供している。必要に応じて腹部マッサージ等も行なうが、自然排便を促す為、運動等のレクリエーションも積極的に取り入れている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	受診や家族との外出予定を考慮し、週3回を目安に入浴支援を行っている。入浴拒否や突発的な来客等でその時間に入浴できなかった場合も順番を変更するなど融通性のある入浴介助を行っている。		週2～3回の入浴が行えるように、本人の気分や意向に合わせて入浴ができるように支援している。入浴を拒む場合は翌日入浴を行うなど、個々に沿った支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の方にも手伝っていただきながら日替わりで布団のシーツ交換と天日干しを行っている。利用者本人や家族との面談の中で生活習慣を把握し、体調等も勘案した上で居室で休んでいただく時間等を設けている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診等で服薬変更や医師からの指示があった際には、考えられる副作用や注意する点などについて全職員に周知徹底している。薬の処方などに質問がある場合には、直接調剤薬局に質問などしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人や家族からの聞き取り、レクリエーションへの参加の様子等から勘案して、喜びや張り合いのある日々を過ごせるよう支援している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩・外食・外泊・墓参りなど、ご家族にも協力していただき外出支援を行っている。天候や利用者の体調を考慮し、ホームの周りを散歩、中庭での外気浴を行っている。現在、コロナウィルス感染症予防の為、施設敷地内での生活となっている。		以前は近隣の散歩を職員と一緒にいたり、家族の支援を受けながら外食や四季を感じる外出を行っていた。現在は感染症対策のため、控えている。	

自己	外部	項目	自己評価	別館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1人ひとりお小遣いを預かっており、ホームで管理している。本人にもその旨説明し理解していただき、外出時に使用できるように準備している。お小遣い帳を作成し、家族がいつでも確認できるようにしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年始の挨拶や手紙等自由に書いていただき、支援が必要な方は職員が側につき、文面を一緒に考える等、馴染みの方との交流が途絶えないよう支援している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	クリスマスツリーなど季節のものを飾ったり、七夕飾りを一緒に作っていただき掲示する等、季節感を取り入れている。また、共用空間の清掃を手伝って頂き快適な空間を維持すると共に、一緒に清掃したという充実感を味わっていただけるよう努めている。	要所にソファと椅子を配置し他の方と時間が共有できる空間づくりや一人でいたい時に座れるソファを配置するなど居心地のよい共用空間づくりに取り組んでいる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	数人がけのソファを要所に配置しているので、本人が気のあった方と一緒に過ごせる空間作りに努めている。1人になりたいときには、居室に戻られゆっくり出来る様に支援している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に置くものについては、ご家庭で使用されていた、布団や枕など本人の使い慣れたもので居心地よく過ごせるよう支援している。	居室には本人や家族と相談しながら、布団など使い慣れた家具や本人の好みの物を持ち込み、居心地よく過ごせるように配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の残存機能を考慮し、補助器具などを活用しながら安心・安全な生活が送れるよう支援している。トイレ・お風呂等毎日の生活で繰り返し使用するところは案内板等を使いわかりやすくしている。			